

<p>金融・会計</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 決済・信用機構への理論的・歴史的アプローチ</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 信用機構 ■ 決済システム ■ 中央銀行 ■ 商人的組織 	<p>現在の銀行は、歴史的な金貸しとは異なり、決済機構を基盤とした信用創造のシステムであり、中央銀行を頂点とした重層的な組織化を特徴としている。きわめて公共性の高い制度ではあるものの、その生成や機能は国家による規制や法制度というよりも、民間の主体の自生的なネットワークや協力の機構に依拠している。歴史的にも、「講」などの共同体的な相互扶助組織や、そうした伝統的な村落共同体から排除されてきた商人による新たなコミュニティとネットワークの形成などを起源としている。</p> <p>そうした通貨・信用の機構に対する理論的・歴史的な研究は、マイクロファイナンス等の新たな金融の試みや地域通貨などの、地域社会の再生のための取組の意義や限界などを問い直すものとなりうるであろう。また、そうした取組の事例研究は、信用機構の理論を深めていくうえで大きな役割を果たすものと思われる。</p>
	<p>〈信用機構の理論的展開〉</p> <p>マルクス経済学をベースとした市場機構論は、生産過程を包摂した産業資本特有の制約性に目を向けてきたために、早くから流通過程の不確定性や取引上の諸費用の問題を軸に、組織化や制度化を論じてきた点に特色がある。その上で、本研究では資本のもつ「商人」的側面に光をあて、商人的なネットワークや会員制クラブ的な組織の特徴を理論的に考察し、銀行間の組織化における〈垂直的組織化〉と〈水平的組織化〉の二類型を明らかにしている。</p>
<p>田中 英明 Hideaki Tanaka</p>	<p>〈信用機構の歴史的展開〉</p> <p>以上の理論的な研究成果は、銀行制度の歴史的な理解についても再考を求めている。例えば、イタリア諸都市やブリュージュなどの両替商による都市内決済機構や、商人銀行家が主軸となった為替契約と大市による都市間多角的決済の機構(下図参照)の理解を深め、17世紀のアムステルダム振替銀行や18世紀のイングランド銀行の歴史的な意義を問い直すことは、現代の国際的な金融機構や中央銀行の特質や限界を浮かび上がらせることとなる。</p>
<p>経済学部 教授</p>	
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●略歴 ・1988年 東京大学 経済学部 卒業 ・1995年 東京大学大学院 経済学研究科 博士課程 単位取得退学 ・1995年 滋賀大学 経済学部 助手 ・1996年 同 講師 ・1998年 同 助教授 ・2015年 同 教授 <p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●所属学会 経済理論学会 	